

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

November
2020

11

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年11月1日発行(毎月一回発行)第755号

● 出会い・本・人

「いつか来る二回目」のために 北村裕樹

● 特集B LM (Black Lives Matter) を学ぶための

この三冊! 山下壮起

● 本・批評と紹介

J・J・コリンズ著／山吉智久訳 『死海文書』物語 上村 静

日本キリスト改革派教会大会教育委員会著／牧田吉和監修

神さまと共に歩む道 藤本 満

鎌野善三著 3分間のグッドニュース「預言」 梅津順一

小山清孝著 今、よみがえる創世記の世界 中澤啓介

山形謙二著 見えないものに目を注いで 稲田 豊

月本昭男著 詩篇の思想と信仰V 加藤久美子

C・E・B・克蘭フィールド著／山内 眞訳

註解 ローマの信徒への手紙 浅野淳博

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

次世代への提言! 松本敏之

近刊情報

書店案内

キリスト教

本質と歴史

H・キユンク 著 福田誠二 訳

古今東西のキリスト教のすべてがここに。
新時代のキリスト教の百科全書、待望の日本語版の刊行！



● 多様な諸教会・諸教派を一つにするものは何かという根本的問題を探求し、二千年に及ぶキリスト教の歴史を顧みるとともに、教会に対して「根源に向かう」改革を提唱、世界で最も影響力のあるカトリック神学者による渾身の大作！
● A5判・上製・1250頁・本体8,600円

ウイリアムス神学館叢書Ⅳ 今さら聞けない!? キリスト教

旧約聖書編

勝村弘也 著

● A5判・並製・240頁・本体1,700円

【ウイリアムス神学館叢書 既刊本のご案内】

- I 今さら聞けない!? キリスト教 礼拝・祈禱書編 本体2,000円
- II 今さら聞けない!? キリスト教 聖書・聖書朗読・説教編 本体1,500円
- III 今さら聞けない!? キリスト教 旧約聖書編 本体1,300円

日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

好評発売中!

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。
日本キリスト教史研究の里程碑ともいふべき必須の基礎文獻。

呈・内容見本

● B5判・函入・984頁・本体45,000円 ◆ 特別定価 本体42,000円 (2020年11月30日まで)



加藤常昭説教全集35 新約聖書書簡の説教1

加藤常昭 著

加藤常昭説教全集第Ⅳ期第2回配本



鎌倉雪ノ下教会赴任直後に語った講解説教や、隠退後に全国の教会で語った伝道説教などからローマの信徒への手紙とコリントの信徒への手紙二の説教22篇を収録。

● 四六判・432頁・本体3,700円

続巻のご案内

2か月に1冊刊行予定

- 第36巻 新約聖書書簡の説教2 (第Ⅳ期第3回配本)
- 第31巻 使徒言行録講話 (第Ⅳ期第4回配本)
- 第32巻 コリントの信徒への手紙一講話 (第Ⅳ期第5回配本)
- 第33巻 コリントの信徒への手紙二講話 (第Ⅳ期第6回配本)





「いつか来る二回目」のために

北村裕樹

「本を買う時は、二回以上読む本だけにしとき。マンガは一回で十分。それ以外の本は図書館で借りたらええんやさかい。」母の言葉は財布に優しく、一理あった。大きな本棚に憧れながらも、図書館と貸本屋のお世話になった幼少期。

牧師を志した時、正しく語るために正しく本と向き合うことの大切さに気づかされた。学生には大学図書館がある。けれども、卒業すると簡単には利用できない。だから、必要な時に必要な書物がいつも手元にほしい。「二回目はいつか来る。来ないかもしれないけれど、いざという時に困るのはもつと辛い。」この二五年、こつこつ本を買い続け、今は仕事場と自宅、それぞれ小さいながらも一部屋ずつ、壁面いっぱいを仲良く占領している。そんな本たちに囲まれていると心踊る。頭脳空間が拡張されワクワクとした気持ちになる。背表紙を眺めながら、「この本はあの説教の時に役に立った」「この本には夜中、必死にペー지를繰って助けられた」といくつものエピソードを思い出す。

「この本はいつ役立つかな」と期待もする。

今、世間では「断捨離」の嵐が吹き荒れている。牧師も異動が付きもの。「モノ」を減らすのは引越の際にも良いこと。早速、手引き書を図書館で借りてみた（捨てるための本は一回読めば十分）。なにに、「一年間、袖を通していない服は必要ないから捨てましょう。」おお、すばらしい。洋服は半分くらいになった。次は、「一年間、開いていない本は必要ないから処分しましょう。」ちよつと待て。そんな本ばかりだ。出番待ちの十年選手もゴロゴロいる。自炊、電子書籍化という道もあるが、本は「手で覚えている」から「モノ」がないと困る。全部記憶できれば良いのだが、さすがにそれは難しい。そつと閉じて返却ボックスにお帰りいただいた。

そして、今日もまた「いつか来る二回目」のために本を買う。未だ出会ったことのない新しい知恵と知識を求めて。

（きたむら・ひろき 日本基督教団武蔵野扶桑教会牧師）



BLM (Black Lives Matter) を学ぶための ▼この本は！

山下壮起

(やました・そうき・日本基督教団阿倍野教会牧師)

(今に始まったことじゃない)とラップする。

BLMは、黒人の命を軽視し抑圧してきた人種差別的な構造との闘いである。その闘いは、身なりを整えた黒人たちが讚美歌を歌いながら行進した公民権運動とは明らかに異なる様相を呈している。ズボンを腰より低い位置で穿き、顔にタトゥーを入れた若者たちが、口汚い言葉の飛び交うヒップホップを爆音で鳴らして踊りながら正義を求めて町中を行進しているのだ。そんな若者たちをトランプ大統領はならず者 (Fug) と呼んで非難し、社会秩序を乱すなら銃で撃つと脅した。

しかし、腰パンでタトゥーを入れ、ヒップホップを聴く若者は、警官に殺されて当然なのか。公民権運動の戦略に従って身なりを整えなければ、市民として、一人の人間として認められないのか。残念ながら、そのような振る

ジョージ・フロイドが白人警官によって殺害された事件をきっかけに、全米、そして世界各地でブラック・ライヴズ・マター運動(以下、BLM)が展開している。BLMは、黒人の少年トレイヴォン・マーティンを銃殺した白人男性に無罪判決が出されたことへの抗議として二〇一三年に始まった。そして翌年の夏、マイケル・ブラウン青年がミズーリ州ファーガソンで白人警官に殺害されたことへの抗議をきっかけに全米に広がった。

これまでは黒人が日常的に暴力に晒される現状が報道されることはほぼなかったが、スマートフォンとSNSの普及によって字のごとく可視化されるようになった。一方で、NWAが一九八八年にFuck Tha Police (警察なんていらねえ!)と叫んだように、SNSの普及するずっと前から警察による不当な暴力を告発してきたのがヒップホップである。そして、それから約三〇年経ったいま、21 Savage は友達の弟が警官に殺される現実をNothin' New

舞いによって、差別的な構造が生み出す諸問題が解決されたわけではない。アメリカの諸都市では、グローバル化による生産拠点の海外移転によって黒人労働者の失業率が増加し、貧困や薬物の蔓延によって隔絶されたインナーシティが形成され、そこに暮らす若者たちは不当な司法政策のターゲットとされた。一方、身なりを整えて社会的に成功した人びとはインナーシティから郊外へと移住し、公民権運動の中心だった黒人教会は社会問題から距離を置くようになった。

そうした状況のなかでインナーシティの若者たちの間から誕生したのがヒップホップだった。お行儀のよさによって闘った公民権運動世代とは異なり、ヒップホップは構造的な差別が生み出す過酷な現実やそれに対する怒りやありのままに吐き出す。そのヒップホップ的感性はBLMを特徴づけてい

る。それゆえに、黒人教会や公民権運動を闘った世代からは「黒人のイメージを傷つけ、公民権運動が築いた遺産を台無しにするのか」と厳しい批判を受ける。しかし、そんなのはおかまいなしだ。どれだけお行儀よくしても、警察が我々を殺すのをやめないのなら、声をあげて闘うFight The Power しかないからだ。

BLMについて知るために、また、いま声を上げている黒人の若者が置かれてきた状況をイメージするために、アンジー・トーマス『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ』(岩崎書店)をお薦めする。本書はトレイヴォン・マーティンやマイケル・ブラウン殺害に対する黒人の反乱を下敷きにし、幼馴染の少年カリルが警官に殺害されるのを目の当たりにした少女スターが立ち上がっていく姿を描いている。英語のタイトルはラッパーのトゥー

バックのサグ・ライフ THUG LIFE という思想から拝借したもので、登場人物を介してその思想が繰り返し語られる。THUG LIFEとは「ならず者の生き様」と訳せるが、「The Hate U Give Little Infant Fucks Everyone (幼子に植え付けられた憎しみが社会に牙をむく)の頭字語としての意味が込められている。「ザ・ヘイト・ユー・ギヴ」という言葉は、人種差別的な社会構造のなかで黒人の若者が日常的に差別や暴力に晒される現実を示し、愛を実現することの重要性を訴えるものなのだ。この小説は、その思想を反映しつつBLMを描いている。

カリルの命を奪った警察に対してスターが立ち上がっていく過程は、THUG LIFEの真骨頂だ。ヒップホップはインナーシティの若者の霊性を顕現させてきた。社会の与える憎しみによって命を奪われた者を想い起こし続けること

をとおして、全てが解放された世界を見出すのだ。差別や貧困によって抑圧される構造のなかで、ならず者として生きるしかなかった者が報われることなく暴力的に命を奪われる。その死を思い起こすなかで立ち上がっていく。スターの姿から、ヒップホップ的な靈性を帯びた運動としてBLMを受け取ることができるとははずだ。

それでは、そもそも何が警官による過剰な暴力を引き起こすのか。それは、1980年代のレーガン政権以降に監獄が急増した背景を喝破したアンジェラ・デイヴィス『監獄ビジネス——グローバルイズムと産獄複合体』（岩波書店）に詳細に記される。産獄複合体とは、経済構造と密接に結びついた監獄システムを、軍需産業と軍隊や政府が癒着した体制をさす軍産複合体になぞらえた言葉である。重犯罪の件数は減少傾向にあったにもかかわらず、政

治家は犯罪を厳罰化せよと主張し、それに呼応するようにメディアは犯罪に関する報道を増加させ、犯罪者としての黒人の若者のイメージを増幅させた。その結果、黒人はアメリカ全人口の一二パーセントであるのに、刑務所人口では四〇パーセントを超える事態を引き起こした。

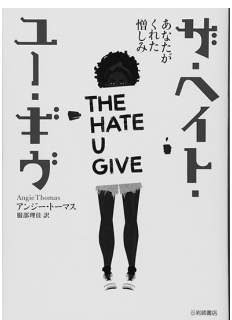
そのようにして誕生した監獄システムは、奴隷制以降も黒人を労役に縛り付けるための制度的画策のなかで生じたことを本書は明らかにする。ラッパのKRS-OneがSound of Da Policeで警官 (officer) を現代の奴隷監視員 (overseer) になぞらえるのは正鵠を射たものだった。BLMがDefund The Police (警察予算を削減しろ) と訴えるのは、現代の奴隷制ともいえる構造があるからである。

BLMはこうしたアメリカの人種差別的構造を打破しようとする預言者的な叫びである。その声が生み出そうとするものを理解するには、コーネル・ウェスト『人種の問題——アメリカ力民主主義の危機と再生』(新教出版社)が最適だろう。というのも、本書の執筆の契機は一九九二年のロス暴動であり、そこでウェストは、黒人が犠牲となる人種問題は民主主義の危機であると訴え、その再生について論じるからである。ウェストは公民権運動以降の黒人リーダーシップの凋落を指摘し、「新しい枠組みと言語」の必要性を訴える。そして、黒人の怒りが提起する挑戦に対して、変幻自在で柔軟性のある即興的なジャズという比喩的形態で取り組むとき、アメリカに変化がもたらされると締めくくる。

実際、BLMにはウェストがジャズにたとえた変幻自在な柔軟性がある。教会の男性牧師を中心にした組織が各地の運動を指揮しようとした公民権運動とは異なり、クイアの黒人女性によって始められたBLMは、ローカルで自然発生的な運動の理論と実践を重んじる脱中心的なものである。しかし、BLMにおいて「新しい枠組みと言語」を提供するのはジャズではなく、ヒップホップなのだ。

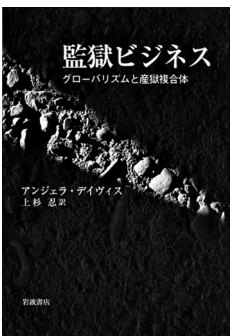
ヒップホップは靈性を帯びた音楽であり、デモ参加者たちの「これ以上我々を殺すな。我々の命を軽視するな」との叫びは、現代における預言だ。そして、警官によって殺害された者の名を呼び、爆音で流されるヒップホップにあわせて踊る若者たちの姿は、国家権

(21頁に続く)



『ザ・ハイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ』

アンジー・トーマス：著
服部理佳：訳
岩崎書店
2018年刊
四六判472頁
1700円(税別)



『監獄ビジネス』 グローバルイズムと産獄複合体

アンジェラ・デイヴィス：著
上杉 忍：訳
岩波書店
2008年刊
四六判157頁
2300円(税別)



『人種の問題』 アメリカ民主主義の危機と再生

コーネル・ウェスト：著
山下慶親：訳
新教出版社
2008年刊
四六判171頁
2000円(税別)

死海文書をめぐる思惑の交錯

〈評者〉上村 静

『死海文書』物語

どのように見えられ、読まれてきたか

J.J. コリンズ
山吉智久 著



『死海文書』物語
どのように見えられ、読まれてきたか
J・J・コリンズ著
山吉智久訳

本書の第一章は、死海文書の発見を報ずる一九四八年四月一〇日の新聞記事の引用からはじまる。死海文書の入門書はすでに多く出版されており、邦訳されているものも少なくない。大抵の入門書は、一九四七年のペドウィンによる死海文書発見の経緯から書きはじめられる。それが時系列に即した書き方だからである。しかし、本書はそれがどう報じられたかから書きはじめられている。ここに他の入門書とは異なる本書の特徴が見られる。本書の原題は、*The Dead Sea Scrolls: A Biography* であり、書物の「伝記」を記すというシリーズの一冊である。死海文書は一冊の書物ではないし、一貫した構想の下に集められた集成でもない。何ほどか宗派的な特性をもった文書が多いものの、そうではない文書も少なからず含まれている。しかも死海文書はその後の歴史に影響を与えてきたものではなく、発見され

るまでの二〇〇〇年間、荒野の洞穴に眠っていた。その発見によって「二度目の人生」を歩みはじめたのである。本書は死海文書とは何であるかを直接的に紹介するのではなく、その発見以来それがどのように扱われてきたのか、学者やマスコミや一般人がどのような反応を示したのか、死海文書をめぐる人間ドラマを織り交ぜながら、学者たちが論じてきた主要な論点を浮き彫りにすることを試みる。

「第一章 死海文書の発見」は、発見と公刊の経緯を概観してから、これらの巻物がどこから来たのかについていくつかの学説を論評する。「第二章 エッセネ派」では、エッセネ派とキリスト教を同定する学説について、また死海文書を生み出した宗派をエッセネ派と同定する学説について論じられる。「第三章 クムラン遺跡」では、エッセネ派の居住地と考えられているクムラン遺跡をめぐる解釈

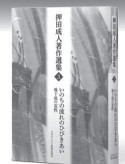
「第一章 死海文書の発見」は、発見と公刊の経緯を概観してから、これらの巻物がどこから来たのかについていくつかの学説を論評する。「第二章 エッセネ派」では、エッセネ派とキリスト教を同定する学説について、また死海文書を生み出した宗派をエッセネ派と同定する学説について論じられる。「第三章 クムラン遺跡」では、エッセネ派の居住地と考えられているクムラン遺跡をめぐる解釈

について、特にその年代学についての最近の議論とその居住者に関する議論が論じられる。「第四章 死海文書とキリスト教」では、死海文書に出てくる「義の教師」をイエスと同定する試みや「悪しき祭司」と同定する試み、およびそれらがマスコミに取り上げられたことにもなう騒動を紹介しつつ、そうした直接的な関係は否定され、エッセネ派とキリスト教は同じ環境で起こった異なる運動と結論づけられる。「第五章 死海文書とユダヤ教」は、死海文書と古代ユダヤ教の諸側面——黙示思想、ハラハー、神秘主義、一般のユダヤ教——が比較考察される。「第六章 死海文書と聖書」では、これまで知られていたテキストとは異なる読みを提示する聖書写本の存在から、紀元前後のユダヤ教においてははまだ聖書テキストも何を「聖典」と

見なすかも定まっていなかったことが指摘され、またペシエルと呼ばれる死海文書に特徴的な聖書解釈について紹介される。「第七章 死海文書をめぐる戦い」では、何人の学者にまつわるゴシップが紹介され、文書発見からそのすべての公刊までのおおよそ五〇年のゴタゴタが総括される。本書では一部の学者の奇妙な側面が紹介されることが多いが、著者コリンズを含め大半の学者はまっとうであり、本書各章の結論も妥当である。すでに死海文書の入門書を読んだことがある読者にも、二冊目の入門書としてお勧めしたい。

(うえむら・しずか) 尚綱学院大学教授
(四六判・二五六頁・本体三四〇〇円＋税・教文館)

現代文明への警鐘を鳴らした
押田神父の著作選集



押田成人著作選集 全3巻 (最終回本)

いのちの流れのひびきあい

地下流の霊性

晩年にかけて醸成されてゆくなかで著されたエッセイを収録。押田神父独自の霊性が扱われる。

A5判上製・260頁・2970円

こちら陽だまり荘

介護士美奈子の日誌 ないとうかずえ



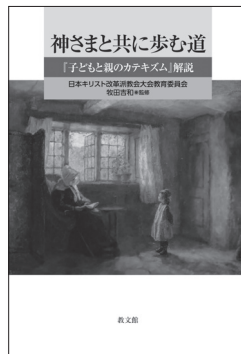
デイサービスと特養での介護にまつわる「あるある話」を悲喜こもごも描く介護マンガ。1話読み切り48話、番外編4話を収録。

A5判並製・120頁・1540円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)
<http://bp-ucci.jp>

次世代への信仰継承のために！

〈評者〉藤本 満



神さまと共に歩む道
『子どもと親のカテキズム』解説
日本キリスト改革派教会大会教育委員会著
牧田吉和監修

「さすが！ 日本キリスト改革派教会」と、うなる一冊である。改革派教会は、『ジュネーヴ教会信仰問答』、『ハデルベルク信仰問答』、『ウェストミンスター小教理問答』など、カテキズムで神学の大綱・具体的な事柄をまとめ、それを子どもを含めた信仰者一般に浸透させてきた歴史がある。

日本キリスト改革派教会は遡ること、一九五六年に教会教育のための特別委員会をもうけ、その後『子どもカテキズム』等、教編を重ね、二〇一四年に『子どもと親のカテキズム』を出版した。今回はそれに必要かつ十分な解説をつけて、わかりやすい書籍となっている(約三〇〇頁)。ここに至るまでの中心的な指針を、本書から読み取ると、一、歴史的なカテキズムの遺産を大事にしながらも、現代の子どもたちに理解できるように、また過去には扱われて

いなかった項目を新たに組み込んでいる。

二、「子どもと親の」と題されているように、家庭における「親と子の信仰的対話の重要な道具」(二六七頁)として機能することを念頭に置いている。つまり、家庭における信仰教育の重要さである。全キリスト教会が「信仰継承」を最大の課題の一つとして認識している。とすれば、誰もがこの本を大いに活用できる。内容も公同教会にふさわしく、改革派の信仰的財産にとどめることはできない。


三、教育の醍醐味。カテキズムであるから問答形式で描かれているが、序文にその意義が記されている。『ウェストミンスター小教理問答集』と同じく、本カテキズムも「あなたの人生の目的は、なんですか?」という壮大な質問から始まる。問いかける側・答える側の双方、即答はあり得ない。「神からの問いかけを、教師がどのように用いるか」

……そして「学ぶ者一人一人の最も深いところに眠っている問い、願い、憧れを引き出す」ために、あえて「問い」がある。さらに短い答えでは不十分とする認識をもって、本書は先に発行された『子どもと親のカテキズム』の解説文である。解説文は、信仰的・牧会的配慮にあふれていて、まるで評者の内にある問いに答えようとしているようだ。

試しに、問54「だれでも聖餐(主の晩餐)にあずかれますか」。答えは明白である。しかし解説文には、①昨今のオープン・コミュニケーションに反対する丁寧な考え方、②交わりと喜びの食卓であるばかりか、自己吟味が求められることが「きちんと」説明され、③受ける資格のない小さな子どもたちや求道者や新来会者への配慮も記されている。冒頭に「さすが!」と題した。カテキズム編纂で中心的

役割を担った相馬伸郎氏は、その信仰の原点が評者と同じくホーリネス系の教団にある。この系統は、一九世紀英米信仰復興運動、そして日本のリバイバルの伝統であり、往々にして家庭における信仰教育は偏りがあり、キリスト教信仰の全体像の提示も曖昧であったと思う。評者などは、聖会や修養会やキャンプで悔い改め、信仰を維持してきた青年期を過ごした。家庭礼拝は重んじられてきた。しかし、それに向けての指針や教材は、結局のところ親と子の「不完全な生き方」でしかなかったように思う。信仰的な対話が、キリスト教信仰の全体・聖書を踏まえて、問いかけ対話(答えへとたどり着く道筋を与える本書は「さすが!」である)。(ふじもと・みつるラインマヌエル高津教会牧師)

(四六判・三〇二頁・本体二〇〇〇円+税・教文館)



カルヴァンと共に祈る日々
 ドナルド・K. マックム
 原田浩司*訳

DONALD K. MCKIM
 カルヴァンと共に祈る日々
 ドナルド・K. マックム
 DONALD K. MCKIM
 著
 原田浩司*訳

EVERYDAY PRAYER
 with
JOHN CALVIN

祈りをめぐり、
 カルヴァンとマックムが
 タッグを組んだ！
 カルヴァンの珠玉の言葉
 とマックムの聖書に即した
 黙想によってわたしたち
 を祈りの人へと導く。

四六判
 定価【本体 2,000 + 税】円
 ISBN9 78-4-86325-126-7



株式会社 一麦出版社
 札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
 TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

聖書読解の手引きと祈りと 献身の手引きとして

〈評者〉梅津順一



3分間のグッドニュース「預言」

聖書通読のためのやさしい手引き書

鎌野善三著

本書は鎌野善三牧師による聖書通読のための手引きシリーズの五冊目、最終篇です。鎌野牧師は、すでに「歴史」「詩歌」「福音」「律法」を刊行し、この「預言」によって完結を見た。一日一章の聖書通読は、イザヤ書だけでも六十六章すなわち六六日、「預言」一冊で、二五〇章、二五〇日、聖書全巻では、一一八九章、一一八九日、三年と九四日ほど。このシリーズ五冊は、聖書通読の長丁場、聖書通読マラソンランナーに向けて、コーチがメガホンで伝える三分間の言葉。その日の聖書箇所について、解説を与え、メッセージを伝え、祈りの言葉を添えて一ページにまとめられたもので、もともとは、教会からの電話メッセージです。鎌野牧師の下で、聖書通読マラソンに取り組み信徒は、本書の一ページを手掛かりに、聖書を読み、み言葉を身近に感じ、祈りの時をもつのです。とすれば、本書の真価は、

評者自身も聖書通読に取り組み、三分間のメッセージを聞き取り、祈りの時間を持たねばならない。それを継続し、数年を経て、はじめてこの「手引き」にコメントできることとなります。評者は、書評の締め切りまで二カ月ほど、努めて本書にそのように接しました。冒頭のイザヤ書から一日一章を心がけたのです。

本書には、聖書読解の手引きと、祈りと献身の手引き、その二つの側面があります。三分間のメッセージにしては、聖書の歴史的背景の説明は詳しく、他方聖書のみ言葉が、読者の信仰を顧み、生き方を導くように工夫されています。二五〇〇年ほど前のイザヤ書の言葉を、現代の出来事に重ねて理解すること、信徒が日々新鮮に身近に感じて生きることが、決して容易なことではありません。コーチ自身が聖書をそのように読み、己を顧みることが必要です。

聖書を読みつつ、テキスト批評に向かいがちなのは私だけではないでしょう。歴史的事実としてはどうか、どうしてもこの順番か、イスラエル以外の人々への預言がこんなに多いのは何故か。次々と疑問が湧いてきます。しかし、テキスト批評による相対化によって、聖書から神の言葉の權威が失われます。聖書を聖書として読むには、聖書を神の言葉として生きる証しが不可欠です。本書が示す、聖書通読マラソンのコーチとランナーには、聖書通読を通して、この世を生き抜こうとする緊張感が共有されています。

礼拝出席を守る信徒の間でも、聖書の言葉が身につかないと反省する人が多いのではないのでしょうか。英語を学んでも英語が身につかない、聖書を読んでも聖書が身につかない。どちらも、本気で身につけるには覚悟と訓練が必要

です。修道院では、一日に何度か祈りの時間を持ちますが、その祈りの多くはその日、その時に定められた聖書の復唱です。聖書の祈りを、修道士たちが集い、ただひたすらに歌い続けていく。聖書の言葉を身に付けるには、そのような修練、長い時間をかけた訓練が必要です。

一日一章、聖書と対話して生きることが、現代では無理な注文との声もあるかも知れません。しかし、イザヤ書は確かに、神の呼びかけと人の応答として構成されています。聖書は語られたままに読むこと、そのような読み方を聖書自身が求めているのです。日々の聖書通読は、幼子が両親の言葉を聞きながら、分からないながらも言葉を身に付けていくように、神のみ言葉を身に付ける必要な時間なのです。

(うめつ・じゅんいち 青山学院大学名誉教授)

(A5判・二七二頁・本体一六〇〇円＋税・ヨベル)

小川修パウロ 書簡講義録7

ガラテヤ書講義 I

小川修パウロ書簡講義録刊行会編

●A5判上製 二九九頁 ●定価三三〇〇円

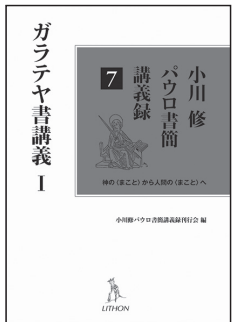
小川修先生が長年追い求められた福音理解は、同志社大学神学部大学院での三年間(二〇〇七～一〇年)に亘るパウロ書簡講義に結実したと言っても過言ではない。ひとこと言えば、「神の(まこと)から人間の(まこと)へ」というパウロの福音理解であった。

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

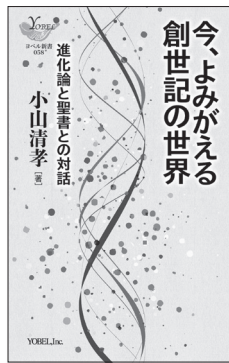


新刊



「デニス『進化論』の手引書」、 気迫あふれる書。進化論問題に光!

〈評者〉 中澤啓介



今、よみがえる創世記の世界
進化論と聖書との対話
小山清孝著

「進化論」に関しては、クリスチャンの間に意見の違いがある。しかし、どのような意見をもっている、クリスチャンであるなら、『創造か進化か』は必読書である。その内容については、『本のひろば』(二〇二〇年七月号)で、関野祐二師(日本福音主義神学会理事)が的確に紹介している。それに付け加えねばならないことは、特にない。それゆえここでは、本の内容には立ち入らず、本書から私が受けた印象を述べてみたい。私がこの書を初めて手にしたのは、二〇〇八年の秋、アメリカのロードアイランドで開かれた「福音主義神学会」だった。出版されたばかりの本が山積みになされ、飛ぶように売れていた。それを見て、つい私も、手を出してしまった。読み始めると止まらなくなり、学会そっちのけで読んだことを覚えている。

私は、高校一年の時にクリスチャンになった。以来、創造科学(六〇年代)、古い地球説(七〇年代)、宗教と科学の二重真理観(八〇年代)、ID説(九〇年代)などをさ迷いながら、今世紀に入りフランシス・コリンズの本に辿り着き、「バイオロゴス」のメンバーになった。デニスの書物に出会ったのは、丁度そのような時だった。本書を読み終わって、特に二つのことが印象に残った。一つは、「生物進化」の問題を扱いつつも、ビッグバンによる創造、太陽系の成り立ち、植物界や動物界の実相、人類史の概要、「神のかたち」の意味、人間創造の目的、アダムとエバとは誰か、エデンの園の実在地、墮落事件の結末、間違った原罪説、カイン時代の歴史的背景等々、福音理解に根源的な問題を真正面から論じていることである。二つ目は、専門の分子生物学に対する「学問的良心の厳しさ」である。「進化論」は、一五〇年以上にわたって緻密

造科学(六〇年代)、古い地球説(七〇年代)、宗教と科学の二重真理観(八〇年代)、ID説(九〇年代)などをさ迷いながら、今世紀に入りフランシス・コリンズの本に辿り着き、「バイオロゴス」のメンバーになった。デニスの書物に出会ったのは、丁度そのような時だった。本書を読み終わって、特に二つのことが印象に残った。一つは、「生物進化」の問題を扱いつつも、ビッグバンによる創造、太陽系の成り立ち、植物界や動物界の実相、人類史の概要、「神のかたち」の意味、人間創造の目的、アダムとエバとは誰か、エデンの園の実在地、墮落事件の結末、間違った原罪説、カイン時代の歴史的背景等々、福音理解に根源的な問題を真正面から論じていることである。二つ目は、専門の分子生物学に対する「学問的良心の厳しさ」である。「進化論」は、一五〇年以上にわたって緻密

よみがえる創世記の世界」という書物をも著わされた。それは、誰もが気軽に読める「デニス『進化論』の手引書」である。といっても、それに留まらず、小山師独自の問題意識や研究成果も随所に見られ、日本人がもつ「進化論の躰き」を取り除きたいという「気迫」に溢れている。多くの教会や伝道団体では、未だ、「進化論の問題」は解決済、とは言い切れない。ミッション・スクールなどでも同じだ。まず若い方々が、『創世記の世界』を学び、それから『創造か進化か』に取り組んでほしい。二つの書物には、「世界の見方」と「聖書の読み方」を変える力がある。その見方の変革こそ、閉塞感に覆われている「日本宣教」の突破口になることは間違いない。

(なかざわ・けいすけ 大野キリスト教会協力牧師)
(新書判・二〇八頁・本体一〇〇〇円+税・ヨベル)

新刊

病の神学

ジョン・クロード・ラルシュ 著
二階宗人 訳



病気は人間であることと条件と関係づけられている——
「病の神学」に依拠しつつ、病の意味を問う。
病気とその痛みを癒すこと、さらに人間の霊的な全体的救いをキリスト教の視点から展望する。

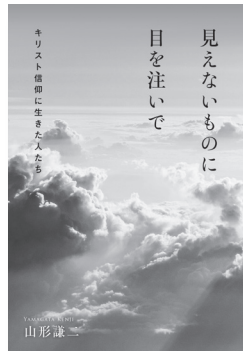
A5上製・3200円(税別)

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819
http://www.kyoyusha.com

見えない神の世界——しかしキリストの証人によってその世界は微かに見えてくる

〈評者〉 稲田 豊



見えないものに目を注いで
キリスト信仰に生きた人たち
山形謙二著

著者は、優れた信仰者たちの生き様とその言葉を紹介することによって、私たちにもう一度、キリスト者の証が持つ大きな力を再認識させてくれる。この本はあなたにさらに一段と高い信仰の高みを垣間見させてくれるだろう。

アイザック・ニュートンは次の言葉を残している。「私があなたを見渡せたのだとしたら、それは巨人の肩の上に乗っていたからです」。ニュートンは一二世紀フランスの哲学者ベルナルから引用したらしいが、自分の学問上の発見は、全て先人たちが積み上げてきたもののおかげだと言っているであろう。信仰者もまた、人生をかけてキリストを証してきた先人たちの遺産に、その多くを負っているのである。

しかし本物の証を見出すことは容易なことではない。古美術の世界で本物を見出すのが容易でないのと同じかもし証を聞いたのは三〇年ほど前のことだ。担当者は「そのように部内で先輩から受け継がれています」と言ったらしい。西村氏がアドベンチスト弾圧にも関わっていたのだから、彼の残した言葉が、当時の文部省宗教局で未だ受け継がれていたとしても不思議はない。

印象的なエピソードは、戦前の日本で長く働いたアンドリュー・ネルソン牧師とモンテンルンバBC級戦犯日本兵たちの出会いである。彼ら一人ひとりの処刑にネルソン牧師が立ち会った話は、涙なしには読めない。ネルソン牧師が残した「ネルソン漢英辞典」は、現在でも欧米の日本語研究者の必携書となっている。ここまで日本人を愛し、日本語に熟達した欧米人はそうそういないだろう。日本のために人生をかけてくれたキリストの証人が、ここにもいたのである。

最終章が近づくにつれ、この証のアンソロジーは著者の個人的証の色彩が強くなっていく。実際、最終章は著者自身の証である。自らの信仰のルーツである祖母山形たけ子

れない。本物を知る目利きのみが本物を見出す。その目を持っていて著者によって、本書は珠玉の証アンソロジーとなった。

評者にとって個人的に大きな収穫だったのは、太平洋戦争中のセブンスデー・アドベンチスト教会の迫害の頃、文部省宗教局においてキリスト教取締の責任者であった西村徳次郎氏について、初めて知ったことであった。迫害下のキリスト信徒教職たちの純真な信仰と不屈の精神に心打たれた彼は、ついに職を辞し、洗礼を受けるに至る。日本の敗色が濃くなり、キリスト教への迫害がますます激化する中で、迫害者から信徒になる大転換、昭和のパウロとでも呼ぶべき回心であった。文部省に「聖書に最も忠実な教会はどこか」と聞いて、「セブンスデー・アドベンチスト教会」との答えを得て、教会に来るようになった。そんな入信の

のキリストとの出会いから始まる不思議な神の導きの物語がつづられている。そして大学生活の中で体験した神の摂理、米國・ロマンシング大学への留学もまた不思議な方法で道が開かれていく。今までは黒子に徹した著者が、自らが証人として前面に立ち始める。この章において、現在の信仰者山形謙二を形作った秘密の一端に触れたような思いをする読者も多いのではあるまいか。

最後に、日本のアドベンチスト医療の恩人であるデルマー・ジョンソン先生は、二〇一九年九月にしばしの眠りにつかれたが、著者は尊敬の念を持ってジョンソン先生を追想していることにもふれておきたい。ジョンソン先生もまた日本のキリスト教界が記憶すべき一人である。

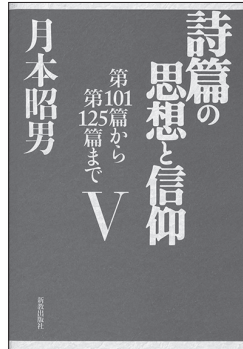
(いなだ・ゆたか「セブンスデー・アドベンチスト世界総会北アジア太平洋支那総務局長」)

(四六判・二五五頁・本体一六〇〇円＋税・福音社)

唯一神信仰の理解へ

祈りと讚美の言葉を通して

〈評者〉加藤久美子



詩篇の思想と信仰 V

第101篇から125篇まで

月本昭男著

本書は二〇〇三年四月に刊行が開始された著者による詩篇注解の第V巻である。第VI巻はこれに先立って出版されているため、本巻をもって全六巻が完結した。最新の学術的成果を取り入れ、日本語で書かれた詩篇全篇の個人による注解書としては、関根正雄の注解(『関根正雄著作集』第一〇〇〜第一二二巻、新地書房、一九八〇〜八一年)に次ぐ出版となる。偉業を成し遂げられた著者にお祝いと、読者の一人としてお礼を申し上げたい。

本注解書は、月刊誌『福音と世界』における連載に補正を加えたものであり、緒論は付されていない。第V巻は、第一〇一〜第一二五篇の各篇の注解からなっており、また付論として、第二二〇〜第二三四篇の共通の表詞(本書の訳「巡礼のうた」)の意味に関する議論がまとめられている。

この詩篇注解の特徴は、旧約学者、楔形文字文書の研究

いられるが、近年の研究の方向性に一致して、聖典内のテクストの関連性の指摘が多くなされており、示唆に富む。

「思想と信仰」では、各篇に表される信仰の核心に関わる事柄に焦点が絞られ、それらがヘブライ語聖書全体、古代西アジアの宗教、あるいは日本思想を含む人類の文化などの広いコンテクストにおいて論じられる。例えば本書では、混沌の海、永遠の契約、貧しい者の保護、人間による救いは虚しい、ヤハウェの法廷、唯一絶対の神の逆説的特質、救いの原型としての出エジプト、偶像批判、ヤハウェの名を呼ぶこと、諸国民へのヤハウェ讚美の促し、律法、シャロームなどのトピックが取り上げられている。

本書の扱う範囲には、動物の生活への神の配慮を具体的に描く創造讚歌(二〇四)、一七六節に及ぶ律法の詩篇

者、キリスト者という複数の面を持つ著者が、キリスト教

信仰を前提にした神学的考察を差し控え、個々の詩篇の特色とそこに現れるヤハウェ信仰の本質的な側面を提示することに専念した点にある。それを通して著者は、西アジア

文明圏の一隅に成立した唯一神信仰の理解へと読者を導く。各篇の注解では、まず表題(詩句の抜粋)と翻訳が示され、「訳注」「構成、主題、背景」「思想と信仰」が続く。「訳注」は詳細であり、なかでも、語句に関するヘブライ語聖書

の他の用例の参照指示は、個別の詩から聖書全体へと視野を広げるためのすぐれた導きとなっている。「構成、主題、背景」では、研究者の名や文献情報は最小限に抑えつつ、諸学説が検討され、自らの見解が明らかにされている。

成立時期の推論では、論拠として、儀礼的背景、社会的状況、ヘブライ語聖書の他の文書の引用や暗示が適宜用

(二一九)など、数々の個性的な詩があり、興味は尽きないが、評者には、類型の異なる三つの部分からなる第一〇二篇や既成の二つの詩篇を合成した第一〇八篇のような、異質な要素を組み合わせて作られた詩の意図とその重層的な意味を探る考察は、第二神殿時代の書記学者たちの信仰と知性の営みを垣間見させてくれ、大変興味深かった(なお一四九頁の「前一世紀末」は「前二世紀末」の誤りか)。

本注解書では、詩篇の配列や詩篇の書の構造の問題にはわずかしか触れられていないが、著者はそれらに関する見解を折にふれ述べておられる。注解の後に著されると聞く緒論では、その点も取り上げて下さることを切に願う。

(かとう・くみこ) 南山大学准教授

(四六判・四二四頁・本体三九〇〇円+税・新教出版社)

ヨベルの新刊案内

P・T・フォーサイス 川上直哉訳著
聖なる父 コロナの時代の死と葬儀
「現場の神学」Positive Theology」に挑戦し、実践を試み続け、思索する川上直哉牧師による、フォーサイスの名説教「聖なる父」の全訳。2020年のコロナ・パンデミックに遭遇した現代日本の苦悩を透過して語りかけてくるものを聴く。論考「コロナ時代の死と葬儀」を併録。新書判・二一〇〇円



「現場の神学」Positive Theology」に挑戦し、実践を試み続け、思索する川上直哉牧師による、フォーサイスの名説教「聖なる父」の全訳。2020年のコロナ・パンデミックに遭遇した現代日本の苦悩を透過して語りかけてくるものを聴く。論考「コロナ時代の死と葬儀」を併録。新書判・二一〇〇円

キム・ナムグク 「わたし」があなたを使いたい
チム・キユベ訳 発行 DENZEL ヨナ書講解

反響!

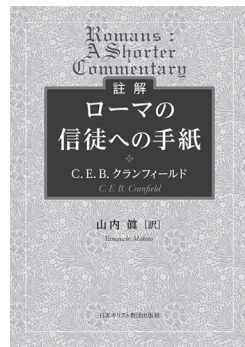


「まだ意地を張りたいのか?」自分の思い通りに判断、決断し、帰ってくるのはより大きな不満と恨みだけ! 自分の考えで凝り固まった意地つ張りな私を我慢してくださる神。反対と不従順のこの時代を御言葉で振り向かせよう。キム・ナムグク牧師のヨナ書講解。四六判・二四八頁・一五〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税別)

一般読者にも向け敷居を下げた
英語圏ローマ書註解の決定版

〈評者〉浅野淳博



註解 ローマの信徒への手紙
C・E・B・克蘭フィールド著
山内眞訳

チャールズ・E・B・克蘭フィールド著「註解 ローマの信徒への手紙」の公刊の知らせを大きな喜びをもって受け取りました。本著者の克蘭フィールドは一世代前の英国新約聖書を代表する学者の一人に数えられます。ケンブリッジ大学で学位を取り、しばらくの牧会活動の期間を経て、ダラム大学にて三十年間教鞭を執りつつ、研究と

次世代の研究者育成に尽力しました。聖書学分野でめざましい貢献を残した人物に贈られる由緒あるパーキット・メダルの受賞者でもあり、まさに英国を代表する世界的な新約聖書学者、とくにローマ書研究者です。四半世紀にわたる克蘭フィールドのローマ書研究の成果は、まず英国に拠点を置くインターナショナル・クリティカル・註解書シリーズ（ICC）から一九七五年と一九七九年とに分けて、第一巻（二―八章）と第二巻（九―一六章）とが出版され


ましたが、これは当時、英語圏で執筆されたローマ書註解の中でもっとも詳細で神学的に鋭い視点を提供するものとして、決定版と称された註解書です。

本著は、この二巻からなる専門性の高い大著の簡略版であり、ギリシャ語に馴染みのない一般読者にも読みやすいよう、ギリシャ語やヘブライ語の表記を省き、文法的解説や専門的議論を要約して敷居を出来るかぎり下げた註解書となっております。ICCの二巻本は近現代の註解者のみならず教父時代の註解書をも広く視野において対話していますが、本著では細かい議論が省かれているものの、その広角度の対話の成果は享受できるようになっています。さらに重要な箇所における異なる議論が分かりやすく区分されており、最後に著者の考えを明示するという仕方では、読者の理解が深まるよう留意されています。


註解書の神学的特徴としては、とくに三点が挙げられると思います。一つに、本著はローマ書とパウロ神学において重要な概念である「神の義」を、ケーゼマンとその追従者ら（ミューラー、シュトゥールマツハー等）が提唱した「救いの創造の力」という新たな解釈の方向性から距離を置き、むしろブルトマンやコンツェルマンと同様に「神の賜物としての義」という解釈に留まります。多少時代錯誤的であっても無関係ではないと思われる「ピステイス・クリストウ」に関しては、これを取り立てて議論するわけがないにせよ、一貫して「キリストへの信仰」という解釈の立場を示しています。二つ目にロマ九―十一章の解釈においては、個々人の救いという視点でなく、キリスト教とユダヤ教というかたちの神の国形成というバルトのロマ書註

解に近い立場を取っています。三つ目にユダヤ律法に関しては、キリストが来たのはその廃止でなく成就が目的であり（ロマ一〇・四）、パウロの律法に関する否定的な言説はその濫用への問題提起であると教えます。本著がE・P・サンダース著『パウロとパレスチナ・ユダヤ教』に先んじて執筆されたことに鑑みると、克蘭フィールドによるパウロの律法理解への洞察の深さが窺えます。これら（とその他多く）の神学的特徴は、読者が今一度立ち止まってローマ書を熟考するよい機会を提供することでしょう。最後になりますが、秀逸のローマ書註解を丁寧に翻訳して下さった山内眞先生に謝辞を記して、書評にかえさせていただきます。（あさの・あつひろ 関西学院大学神学部教授）

（A5判・五四六頁・本体一〇〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



新刊



宗教史論叢24
媒介物の宗教史
【下巻】
津曲真一・細田あや子編

宗教史学論叢24
媒介物の宗教史
【下巻】
津曲真一・細田あや子 編

●A5判上製 本体5,000円＋税
寺戸淳子 恵みの「座」、「永遠」の痕跡—聖遺物、イコン、写真／細田あや子 メソポタミアのアーシブの儀礼にみる媒介物／渡辺和子 メソポタミアの祈りの媒介物／深谷雅嗣 新年の布—古代エジプトの呪術／津曲真一 媒介物と儀礼空間—テルダク・リンパの完成儀礼論／池澤優 戦国秦漢の墓葬における死者と死後世界の表象／深澤英隆 描く手の媒介性と無媒介性—「霊媒絵画」の周辺／他7篇

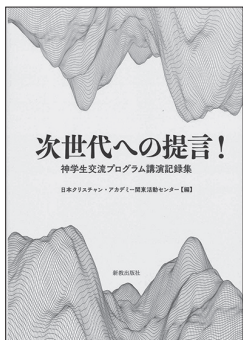
ISBN978-4-86376-080-6

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

なんと密度の濃い 意義深い講演集だろう

〈評者〉松本敏之



次世代への提言！
神学生交流プログラム講演記録集
日本クリスチャン・アカデミー関東活動
センター編

なんと密度の濃い、そして意義深い講演集だろう。

これは、日本クリスチャン・アカデミーが、二〇〇九年から一〇年間にわたって行ってきた「神学生交流プログラム」の主題講演を抜き出して一冊に編集したものである。

このプログラムは、二〇〇九年から毎年三月に二泊三日の日程で、教派・教団の枠を越えて各神学校から推薦されてきた神学生たち（原則各二名）を対象として行われてきたものであり、プログラムの仕掛け人は戒能信生さんである。戒能さんは、一九六〇年代に行われていた各神学校の交流プログラム、インターセミナー・カンファレンス（通称「インセミ」）の現代版を実施したいと願い、そして「これこそがクリスチャン・アカデミーならではの行事だ」ということで熱心に推進してこられた。また関田寛雄さんは、このプログラムに「校長」としてかかわってこられた

ド」（関田）である。

多くの講師が、実行委員会の依頼に応じ、第一講演で「個人史、特に信仰の遍歴」について、第二講演で「研究課題として来られた神学的テーマ」について述べている。

それぞれの第一講演は、他で述べられたことがない内容も多く、貴重な資料である。その思想形成のプロセスを知ることとなり、わくわくさせられた。人生には、かけがえない出会いというものがある。一見偶然のように見える出会いが、その後の歩みを決定づける。これらの講師たちにも、そうした出会いがあったことを思い、感慨深い。

各講師の第二講演は以下の通りである。「福音宣教の功罪——ローマ植民市フィリピにおけるパウロの宣教活動を手掛かりとして」（荒井）、「イエスの十字架の意味——現代の私たちに問いかけるもの」（青野）、「キリスト教と教会の原像——キリストがもたらした価値観・世界観の普遍性と担い手としての教会と福音書」（森）、「いま、旧約聖書の世界から考える」（並木）、「日本で福音を宣べ伝えるということ——わたしの牧者論」（石田）、「エキュメニカル運動の軌跡と神学的課題」（神田）、「宣教論的視点から見る日本プロテスタント史」（戒能）。

神学校の授業のように、時々脱線するが、脱線の中で本

が、「はじめに」において、これから牧師・神父になろうとする人に向かって話してこられたことを五つのポイントでまとめておられる。これは現役の牧師・神父たちにとっても、慰めと励ましに満ちた言葉である。

一〇年間の講師の顔触れは多様でありつつ、同時に一本筋が通ったところがある。講師と主な働き・分野は、年代順に以下のとおりである。荒井献（新約学）、小林哲夫（茶道裏千家）、本田哲郎（釜ヶ崎で働く司祭、新約学）、関田寛雄（実践神学）、杉野榮（京都キリスト教史跡研究）、青野太潮（新約学）、森一弘（カトリック司教）、並木浩一（旧約学）、石田学（牧会学・宣教学）、神田健次（エキュメニズム）、戒能信生（日本キリスト教史）。いずれも日本のキリスト教界を代表するような方々の講演であり、「特定の神学校の教育だけでは得られない神学的精髓のオンパレード」

音が述べられて興味深い。一般信徒の方々にもわかりやすい講演でありつつ、レベルは高い。もちろん牧師たちにも有益である。ぜひ多くの人に手にしていただきたい。

（まつもと・としゆき 日本基督教団鹿児島加治屋町教会牧師）
（A5判・三六八頁・本体二一〇〇円＋税・新教出版社）

（5頁から続く）
ウン、その他多くの無名の黒人が殺された。その一人ひとりの名を呼ぶ路上での抗議が同時にパーティーへと変貌する有り様は、生ける者と死した者とが共に在る「神の国」を現臨させる黙示的なものである。ヒップホップの霊性と結びついたBLMが映し出す「神の国」の幻に希望を見出していきたい。

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yaho.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshita.cococan.jp/	nagoya-seibunshita@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@mikihana.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区西原字翁張777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局

——まばたきの詩人 兄・水野源三の贈り物

林久子文／水野源三詩／小林恵写真

まばたきの詩人・水野源三。脳性まひで四肢の自由と言葉を発する能力を失い、唯一の意思伝達法である五十音表を使った「まばたき」で多数の詩・短歌・俳句・賛美歌を残した。そのまばたきを書き写し続けた妹・久子さんが記す兄・源三の思い出と作品の数々に美しい写真を付す。

A5判変型・80頁・本体1200円

■キリスト新聞社

クリスマスへの旅路

——アドヴェントからエピファニーへ

越川弘英編

教会の歴史においてその時々にはふさわしく、新しく福音の意味が問い直され、語り直されてきた教会暦。コロナ禍のクリスマスを、気鋭の牧師・司祭たちによる新しい言葉を通して、一週ごとに丁寧に味わうための説教集。「レント・イースター」「ペンテコステ・教会行事暦」も順次刊行予定。

四六判・2332頁・本体予価1600円

INFORMATION

近刊情報

■新教出版社

ケノーシス

——大量消費時代と気候変動危機における祝福された生き方「仮題」

サリー・マクフェイグ著／山下章子訳

エコ・フェミニスト神学を力強く牽引してきた著者の最後の著作となった作品。ウルマン、ヴェイユ、デイラ先達の生き方に学びながら危機の時代の新たな霊性を探る。いま必要な神学がここから始まる。

A5判・364頁・本体予価4000円

■教文館

やさしさの贈り物

——日々に寄り添う言葉366

片柳弘史著

一年分の幸せを、一冊の本にしました！ フォロワー10万人の神父の言葉を厳選。『こころの深呼吸』『始まりの言葉』に続くシリーズ第三弾！

A6判・390頁・本体900円

福音と世界

2020年11月号

特集 パンデミックとキリスト教

寄稿者 小原克博、越川弘英、長尾有起
松谷暉介、戒能信生

寄稿 日本フェミニスト神学・宣教センターの
二〇年を振り返って(山口里子) 好評連載「
Say a Little Prayer 開かれる世界(栗田隆一)」、
いまを生かす(みづほ)(金迅野)、バビロンの路
上(Conjecture of a Son of a Preacher Man(マ
ニユエル・ヤン) 教文学入門(土井健司) ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

どうしようもなく辛いことや悲しいこと、理不尽な目にあつた時、聖書の中でどんな苦しみを味わつても神様への信頼が揺るがなかつたヨブのようにはなれず、「神様は本当にいるの?」と思うことがあります。

その疑問をそのまま歌にした「イエスさまいるってほんとかな」という子どもの賛美歌があります(『こどもさんびか改訂版』一六番、日本キリスト教団出版局)。英文学者で賛美歌研究の第一人者であつた大塚野百合先生(一九二四—二〇一九)は、『こどもの賛美歌ものがたり』(教文館)の中で、日本語の短くて易しい歌詞の中にキリスト教が本当に伝えたい「生きて共にいてくださるイエス」のメッセージがあると語っています。

予告

本のひろば

2020年12月号

本・批評と紹介

加藤常昭著『エフエソの信徒への手紙』、越前喜六著『必ず道は開かれる』、及川 信著『ルカ福音書を読もう上』、古賀 博編『信仰生活ガイド使徒信条』、三浦 望著『NTJ新約聖書注解第1、第2、第3ヨハネ書簡』、キム・ナムグク著『わたし』があなたを使いたい ヨナ書講解、大頭真一著『天からのほし』他

大塚先生は、一〇冊にも及ぶ賛美歌関連の著作を遺されました。そこでは一貫して、日本人に馴染み深い「主われを愛す」「きよしこの夜」などの賛美歌や唱歌をはじめ、さまざまな歌の原詞と曲が持つ背景や作者のエピソードを丹念に解き明かし、日本語の歌詞だけでは伝えきれない原詞の世界観が紹介されています。著者と賛美歌作家たちに共通していたものは、「本当に、本当に、主イエスは私を愛してくださっている」という揺るぎない信仰でした。その華奢なお身体からは想像できないくらいエネルギーに満ち溢れ、どんなに心が折れそうな困難の前にも、祈りと感謝を持って「大丈夫、神様は私たちをこの上なく愛しておられます」と堂々と宣言できる。そのような信仰を一朝一夕で身につけることは至難ですが、疑う自分も含めて神様が共にいてくださるように祈り続けたいと思います。(奈良部)

教義学要綱

ハンディ版

名著の新訳!

カール・バルト著 / 天野有、宮田光雄訳

10月23日

敗戦間もないドイツで使徒信条を用いて行われた教義学の入門講義。バルト神学の巨大な世界を凝縮するのみならず、神学することの喜びへと促す名講義。2年前に急逝した天野有氏の遺稿と宮田光雄氏の徹底的なコラボで、バルトの熱い口調が眼前に甦る。 ◆小B6判・本体2000円

クリスマス

激動の半世紀間の10の降誕使信

カール・バルト著 / 宇野元訳

28年から62年までのメッセージを精選。 ◆小B6判・本体1400円

平静の祈り

ラインホルド・ニーバーとその時代

エリザベス・シフトン著 / 穂田信子訳 / 安藤敏真解説

9月25日

現実を受け入れる平静さ、変革する勇氣、識別する知恵を求めた有名な祈りは、戦時下いかなる状況で生まれたのか。 ◆A5判・本体4500円

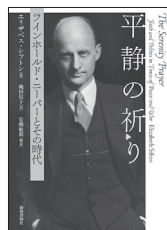
デイズニー変形譚研究

大反響

宮平 望著

世俗化された福音への信仰

『白雪』から『アナ雪』までのデイズニー映像代表作品を完全網羅した研究! 聖俗の狭間にある感動の秘密に迫る。 ◆四六判・本体2000円



次世代への提言!

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

神学生交流プログラム講演記録集

ユニークな神学生交流の場で語られた至言の数々。荒井献、小林哲夫、本田哲郎、関田寛雄、杉野榮、青野太潮、森一弘、並木浩一、石田学、神田健次、戒能信生。 ◆A5判・本体2100円

オンデマンド復刊!

*ご注文より納本まで3週間ほど要します。

ヨハネ黙示録の神学 叢書新約聖書神学

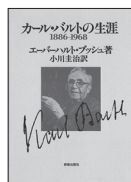
R. ボウカム著 / 小河陽、飯郷友康訳 ◆四六判・本体3500円

帝国支配という文脈の中でその文学的特質を捉え、幻の象徴を読み解く。

カール・バルトの生涯 改訂新版

E. ブッシュ著 / 小川圭治訳 ◆A5判・本体14000円

その生涯と神学の展開を、最晩年の助手が描き切った伝記の決定版。



妹が語るまばたきの詩人の思い出と、精選した詩に美しい写真を付けて収録

悲しみよありがとう

まばたきの詩人 兄・水野源三の贈り物

林 久子 文 水野源三 詩 小林 恵 写真



まばたきの詩人・水野源三。脳性まひで四肢の自由と言葉を発する能力を失い、唯一の意思伝達法である五十音表を使った「まばたき」で多数の詩・短歌・俳句・賛美歌を残した。そのまばたきを書き写し続けた妹・久子さんが記す兄・源三の思い出と作品の数々。贈り物にも最適。

2020年10月15日刊行予定

◆A5判変型 並製・80頁・1,320円

「キリスト教の信仰によって、私の生き方や将棋は大きく変わりました」

だから私は、 神を信じる 加藤一二三

2020年のクリスマスに、洗礼を受けてから50年を迎える加藤一二三氏。対局前には必ず教会で祈りをささげるほどに、その信仰は深い。信仰により生き方や将棋がどう変わったのか、聖書やキリスト教の真髄、愛や苦しみの意味などについて、自身の体験を踏まえて分かりやすく語る。



好評発売中

◆四六判 並製・116頁・1,320円

本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月七日 第三種郵便物認可
二〇二〇年一月一日発行（毎月一回一日発行）
第七五五号 二〇二〇年一月一日発行

発行所 〒169-0014 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
 電話〇三ー三三六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一一六七九
 発行人 金子和人 編集人 土肥研一 印刷所 ㈱平河工業社
 発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三ー三三六〇一五六七〇

定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
 一年分一三〇〇円（送料共）